

ライフサポートニュース

住まいと保険を中心に生活全般についてお得な情報や役立つ知識をご紹介します。

ご存知ですか、火災保険！？

こんにちは、快適生活実践会の柴田です。今日で7月も終わりになるというのに、関東地方はまだ梅雨明けしていないようです。一時的に晴れてもう梅雨明けかなと感じるような時もあるのですが、また雨が降って梅雨空に逆戻りです。夏は梅雨と梅雨の間にあると言われていますが、このまま夏が来ないで終わりになるなんてことがないように祈るばかりです。

7月24日(木)

先週、長男がスーパー銭湯に行った際、滑って転倒してしまい、あごの下をバッキリ切ってしまったのです。その傷口を消毒しに午前中だけお休みさせて頂き、病院に行ってきました。私も同じ6歳の時に、やっぱり転んで机にぶつかり、あごの下を縫ったことがあります。こんな所まで似なくていいのにと思いました。うちは二人の子供とも男の子で、パタパタはしゃぎ回っているのですから仕方のないことですが、とにかくよく転びます。外で転ぶのは分かりますが、家の中でも転びます。私が今住んでいる家は、築24年になります。途中で増築をしているのもあり、部屋の仕切りに段差があったり、お風呂と脱衣所に段差があります。最近の建物は、バリアフリー化が当たり前ようになって段差も少なくなりましたが、これから建築をお考えの方は、平面的なプランの検討以外にも立体的なことを十分配慮して**安全な家**にお住まい下さい。

7月26日(土)

夕方、ハウスメーカーの営業の方からのご紹介で、火災保険の申し込みを頂きました。住宅ローンを組むと火災保険に加入することが条件となりますが、住宅ローンと同時にを行うため、つい金利や返済などの影に隠れ、火災保険の説明を十分に受けずに**言われるがままに加入**する方がほとんどです。簡単にご説明しますと、まず、住宅ローンを借りる時に入る保険会社は、どこでもいいわけではなく銀行の承認が必要になります。これは加入した保険に質権を設定し、万が一の場合にローンへ補填し、その後の負担を軽くするためです。保険の種類は、一般的な住宅火災保険と住宅総合保険の二種類あります。住宅火災保険で担保される内容は、火災・爆発・落雷・風災などです。これを住宅総合保険にしますと、水漏れ・飛び込み・騒じょう・水災などにも対応できるようになります。また、地震が原因となる火災や倒壊は、別に**地震保険**に加入しないと補償されません。

自動車保険も火災保険も損害保険です。損害保険というのは、**実際に損害があった金額**を補償する保険です。生命保険は、何かがあったら決められた金額を支払う保険なのと決定的に違う所です。では、いくら保険に入った方がいいのでしょうか？例えば、実損額が1,000万円の場合には、いくら保険に入っているても1,000万円を超えて支払われることはありません。5,000万円の保険に入っている人も1,000万円に入っている人も、支払われる金額は同じです。でも、保険料は加入した保険金額にて決まりますから、5倍も支払うことになります。勿体無いですよね？しかし、この保険金額も住宅ローンを組んで加入する場合、銀行の承認が必要になります。いくら少なく掛けようとしても、最低いくら以上掛けて下さいと銀行から指示があります。この金額を基にして実際の評価額の保険金額を掛けるのが、通常の掛け方になりますが、もう一つ保険金額を決めるのに注意する点がございます。建物は古くなるほど、時価額が下がります。先ほど、実損額にて支払われるとお話しましたが、築5年の建物と築20年の建物では、同じ保険に加入しても**実損額に違い**が出ます。しかし、住宅ローン時に加入する保険は、借入期間と同じ保険期間を設定するため、当初と20年後の保険金額は同じになります。これでは、無駄に高い保険に入っていることになります。そこでこのようなことがないようにするのが、**価額協定特約**です。これは、時価額ではなく新価で計算されるため、高い保険に入っていたけど、古い家だから十分に保険がおりなかったということを防ぎます。通常、価額協定特約は5年までなのですが、住宅ローン用に長期で特約を付けられることも出来ますので、銀行の方や不動産会社の人に相談してみてください。

7月29日(火)

この日は久々に一日休みました。次男は幼稚園に預けて、怪我の抜糸で病院に行ってきました。予想より早く終わって雨も上がったので、その後は近所の川でザリガニ釣りです。前回何十年ぶりに行ったのですが、その時のザリガニは酸欠か水温上昇が原因で死んでしまいました。可哀相なことをしました。ザリガニにも快適な環境が必要だと思い、今度は万全を期しています。同じ次元で話してはいけないのかもしれませんが、商売柄どうしても生活に置き換えてしまいます。水槽を建物と考えると、中で快適に健康に暮らすのは、同じように**十分配慮**しないといけないんだなと実感しました。皆様もハウスメーカーの人と十分お打ち合わせ下さい。 柴田 誠